

FFGのお取引先企業をご紹介します。

株式会社 オークマ

代表取締役社長 **大隈 晴明**氏

取引店 福岡銀行 甘木支店



株式会社 星山商店

取締役常務 **星山 一憲**氏

取引店 熊本ファミリー銀行 武蔵ヶ丘支店



株式会社 早瀬鉄工所

代表取締役社長 **早瀬 進**氏

取引店 親和銀行 長崎営業部



株式会社 オークマ

代表取締役社長

大隈 晴明氏

創 業：1911年3月

設 立：1955年9月

所 在 地：福岡県朝倉市

資 本 金：10百万円

従 業 員：190名

事業内容：住宅用木製部材(内装ドア・木製防火ドア・遮音ドア、
造作材、和室建具(障子・襖) パネル、クローゼット、
小型ユニットハウス等)の製造及び販売製造拠点：本社・朝倉工場(福岡県朝倉市)、甘木工場(福岡県朝倉市)、
宝珠山工場(福岡県朝倉郡東峰村)

創業98年目を迎えた 住宅用木製部材メーカー

- 当社は初代社長大隈圓次郎による明治44年の大隈建具製作所創業以来「木の温もり」にこだわりながら、今年で98年目を迎えました。創業当初はいわゆる「町の建具屋」として事業を展開していましたが、昭和46年に当時の甘木市長からの推薦などもあって、東芝住宅工業の九州・中国四国地方における指定工場になったことをきっかけに、事業を拡大してきました。

その後、住宅市場が拡大を続けていた時に、建築現場で業務効率化が求められていると感じ取り、「現場の仕事を工場で行なう」というコンセプトを掲げ、工場ドアとその枠を製造して建築現場にセットで納入するという生産手法を手がけるようになりました。その手法が当時では画期的なものとして評価され、大手ハウスメーカーとの取引拡大につながるなど、当社は社会情勢の変化と共に多様化するニーズに的確に応えること

で、事業拡大を図ってきました。

現在では「お客様に商品と一緒に満足と感謝を買っていただく」ことを基本姿勢に掲げ、住宅用内装ドアを中心に障子、襖、階段、床材などの住宅用木製部材の製造を手がけています。

ダントツの品質を持つ製品づくり に注力し、顧客からの信頼を獲得

- 当社は現在、朝倉工場で内装ドアや障子、襖などの和室建具を、甘木工場で内部造作材や収納扉など、そして宝珠山工場で屋根、床、壁などの木製パネルや小型ユニットハウスを生産しています。

製品づくりにおいては、高品質、低価格、短納期の実現に向けた努力を日々実行しています。当社が生産する製品はハウスメーカー毎に多岐に渡っており、これまで数十万種類に及ぶ製品を生産してきました。こうした多品種生産を高品質、低価格、短納期で実現するために、これまで自社内での一貫生産で永年蓄積してきた技術の更なる向上や、コンピュータ機器の積極的な導入、コンサルタントを毎月招いての原価低減活動などを行なっています。

その中でも当社が特に注力しているのは品質です。「ダントツの品質」を実現するため、品質マネ

ジメントシステムの国際規格であるISO9001認定を本社及び各工場取得している他、確かな品質確保のために、朝倉工場内に23項目の試験が実施できる「環境・物性試験室」を整備しています。これだけの規模の設備を有している企業は九州でも数少ないと思います。自社でこうした試験設備を有することで、過去の試験データを社内に蓄積することができ、そのデータを更なる品質向上のために活用することが可能となっています。

当社ではこうした取組みを「当然のこと」として着実にこなしてきました。そのことが、顧客からの信頼の獲得や継続的な受注につながっているのではないかと考えています。

付加価値の高い自社ブランド製品の開発・販売に注力

- 当社はこれまで主にハウスメーカーの新築住宅向け部材の受注生産を手がけてきましたが、住宅市場が成熟化し、将来的に住宅着工件数の伸びが期待できない中、コスト面での要求が年々厳しくなっています。そこで、5年前からはより付加価値の高い、自社ブランド製品の開発、販売に注力しています。



福岡銀行
取締役頭取 谷 正明

間もなく創業100周年を迎えられる当社は、時代とともに変化するニーズへの的確な対応と、製品品質向上に向けた地道な努力により、顧客から高い信頼を得ておられます。

現在も多様化する消費者ニーズに対応すべく自社ブランド製品の開発・販売に注力されています。これからも私たちの住環境が更に快適なものになる製品を開発されることを期待しています。



自社ブランド製品「AKARIDO」



視察風景

する計画です。まず手始めに当社の本社事務所の屋根に太陽光発電システムを設置して、設置ノウハウの習得を図る予定です。太陽光発電はそれ単体で取組むのではなく、将来的には自社製品も合わせた提案を行ないたいと考えています。

顧客、地域に感謝してもらえるような企業へ

- 現在の不況で新築住宅の着工件数は大きく落ち込んでおり、当社も厳しい状況にあります。この不況を乗り越え、また中長期的な新築住宅市場の縮小という流れの中での勝ち残りを図るため、中期経営計画に掲げている「強靱な企業体質」「開発提案型企業」「社会貢献型企業」の実現に全力を注いでいきたいと考えております。

当社は顧客や地域と共に成長してきた企業です。これからも社会における役割をさまざまな側面から捉え、本当の「豊かさ」や「ゆとり」のある、AMENITY（快適環境）を提案し、顧客や地域に感謝していただけるような企業となるための努力を続けてまいります。



左から谷頭取、大隈専務、大隈社長、大坪支店長

開発にあたっては、社内に開発担当部署を設置し、外部との連携を図りながら、今後市場拡大が期待されるリフォーム分野にも活用できることを念頭においた製品開発に取り組んでいます。最初に開発したのは、木製防火ドアです。この防火ドアは木製ながら国土交通省が定める耐火試験をクリアしており、大手ホテルのドアとして採用されるなど、軌道に乗り始めています。そして、木製防火ドアの開発をきっかけに、その後もカーテンやブラインドの代わりとなる新たな遮光建具「AKARIDO」など様々な自社ブランド製品を開発してまいりました。

また、自社ブランド製品の販路開拓にも取り組んでいます。受注生産が事業の中心だった当社にとって、販路開拓はこれまで取組んだことのない未知の分野ですので、まずは外部講師を招いた社内講座を開くなど、様々な方法でノウハウの習得に努めています。

これまでの技術蓄積を生かした新分野への挑戦

- 自社ブランド製品の開発とあわせて、住宅以外の分野での事業開拓にも注力しており、これまで蓄積してきた技術を活用して、自動車部品運搬用のモジュールコンテナの製造や鉄道車両の部品加工などを手がけています。モジュールコンテナについては、組立式のため運搬する部品が変わっても再利用可能という点が評価され、地元の自動車関連企業にも採用されています。

今後は太陽光発電事業にも挑戦

株式会社 星山商店

取締役常務

星山 一憲氏

設立：1980年4月 所在地：熊本県熊本市
 代表取締役：星山 喜淳 資本金：90百万円
 従業員：215名
 事業内容：鉄・非鉄スクラップ加工販売業、建造物解体業、
 自動車リサイクル業、産業廃棄物収集運搬・処理業
 主な取扱品目：鉄・非鉄金属(銅・アルミニウム他)スクラップ
 営業拠点：本社・工場(熊本市)を含め九州内7拠点

一貫したリサイクル事業への
取り組み

- 当社は1971年に私の父 星山喜淳社長が個人創業してから、リサイクル事業一筋に取り組んできました。80年の法人設立から数えると、今年度は第30期という節目の年でもあります。

近年は、地球環境の保護に対する意識の高まりに加え、鉄鉱石や原油に代表される資源高騰により、リサイクルの必要性が社会に定着してきました。こうした需要の拡大を背景に、永年20億円程度で推移していた当社の売上高は、2003年度には2倍の40億円、2008年度には8倍の160億円弱にまで急成長しました。おかげさまで、鉄スクラップの取扱量では九州最大規模となりました。当社が急成長できた原因はこうした社会環境の変化に加え、社長や工場長を筆頭に社員全員が「お客様第一」という姿勢を重視し、お客様からも信頼をいただける企業に成長できたからではないか、と考えています。

高い「機動力」で顧客満足を実現

- 当社のセールスポイントのひとつが「機動力」です。スクラップの引取りや建造物解体の要請に対しては、即日対応を原則としており、お客様から大変喜ばれています。

当社は経営方針のもと、早くから積極的な設備投資を行ってきました。シュレッダー・ギロチン等の機械設備やトラック・重機類の整備を充実させ、処理速度や運搬能力の向上を図りました。さらに、建造物解体や自動車リサイクルへと事業領域を拡大し、当社内の一貫処理体制を確立しました。

ここに、社員の技術力、残業もいとわないお客様重視の姿勢を加えてこそ、当社の「機動力」が発揮できると考えています。

また、当社は他社に先駆けて、将来を見据えたネットワーク拡充に努め、九州に7拠点を設置し、営業エリアを拡大しました。営業エリアの拡大に伴い、スクラップ類の取扱量が増加したことは、価格交渉面においても当社の強みとなるなど、相乗効果を生んでいます。

営業現場のトップとして

- 私は10年前に取締役常務に就任し、営業活動や作業管理を中心とした業務に携わっています。既存のお客様を大切にしながら、新しいお客様を増やしていくことが

私の大きな役割となっています。

また、創業以来38年間、身を粉にして働いてきた社長の負担を少しでも軽減できればと思い、東京・大阪などの大手企業との商談や業界団体の会合などを極力私が引き受けて来ました。

そして、当社を引き継ぐ者として「社会に必要とされる企業、社会に誇れる企業」を目指した舵取りを大切にしたいと思っています。そのためには、私自身が自己研鑽に努め、人間的に成長しなければならないと考えています。

安心して生き生きと働ける企業へ

- リサイクル業界は、業務内容にもよりますが、労働災害の発生率が他産業より高い業界と言われています。当社では作業時の防音・排水処理など徹底した周辺環境への配慮に加えて、2002年に環境認証ISO14001を取得するなど、事故・災害ゼロを理想に掲げ、社員が「安心して生き生きと働ける企業」を目指しています。

また、部長や社員を講師とした社内勉強会を毎月開催しています。業務知識や安全管理の意識を高め、社員が自ら伸びていくような教育を実践していきたいと思っています。

「環境関連企業」としての将来展望

- 当社が「社会に必要とされる企

業」となり、未来に生き残るための課題は「技術革新や新事業に挑戦すること」です。リサイクル業者として生き残っていくためには、「環境保護への取組み」が必要不可欠であると考えています。

その具体的取組みのひとつとして「排水浄化」事業を行っています。工場排水を4回にわたり浸透枘で浄化し、散水などに再活用しています。水質検査を徹底し、地下水の汚染防止に努めるなど、地域との共存共栄を図る事業として、今後も積極的に取組んでいく予定です。

また、先進的な取組みとしては、3年前から太陽光発電システムを本社など3工場の屋根に設置し、運用を開始しています。さらに、木クズの廃材によるバイオマス発電、コンクリート・アスファルトなどのリサイクル率向上など、今後も様々な課題に挑戦し続け、当

社を「環境関連企業」として将来に繋いでいく所存です。

苦境を乗り越える力は、将来の飛躍の原動力になる

- この1年は、スクラップ市場の相場価格が軒並み暴落し、残念ながら当社の売上高も前年比5割未満に落ち込みました(2009年8月期)。市場の波は大きく、対処は容易ではありませんが、価格変動が落ち着きつつある現在は、営業攻勢を掛ける時期だと捉えています。本業であるスクラップ事業をより強固で磐石なものにすべく、当社の強みに一層磨きを掛ける所存です。

経済環境は予断を許しません、好不況は循環するものであり、この苦境を乗り越える力は、当社が将来飛躍するための原動力になり得ると考えています。



熊本ファミリー銀行
取締役頭取 鈴木 元

自ら営業現場に出向いて「お客様第一」を実践されるとともに、社員の安全確保にも注力されている星山常務にお会いして、リサイクル事業に対する純粋で熱い「想い」を強く感じました。常務という立派な後継者が育ったのは、永年リサイクル事業に真剣に取り組んでこられた父である社長を手本にされた結果だと拝察いたします。

市場の波という眼前の苦境を乗り越えて、社会的なニーズが益々高まる「環境関連企業」である当社が発展されることを期待しています。



スクラップの前で



本社工場内



本社工場 外観



左から鈴木頭取、星山専務、星山社長、星山常務

株式会社 早瀬鉄工所

代表取締役社長

早瀬 進氏

創 業：昭和32年 6 月 設 立：昭和32年 6 月
資 本 金：30百万円 従 業 員：約270名
事業内容：非鉄工業製品(アルミニウム・ステンレス) 船舶艦装金物
各種プラント装置、産業鋼構造物、発電・船舶用機器装置
所 在 地：(本社工場)長崎市小江原 5 - 9 - 7
(小江工場)長崎市小江町 1 - 19
(立神工場)長崎市西立神町 5 - 4

ス搬入搬出装置)」の製造を行っています。現在では、各国船級協会の技量施工資格や、ロイド認証機関によるISO9001:2008の認証(LNG船のアルミ・ステンレス製品に関する国際規格)も取得しており、お客様の高度かつ多様なご要望に応えることができるよう製造技術の向上にも努めています。

LNG 船の「PIPE TOWER」
製造に強み

- 当社の主力製品である「PIPE TOWER」の製造に辿り着くまでには、社運を賭けた大きな決断が必要でした。当社にとって転機が訪れたのは、アジア危機が発生していた1997年(平成9年)のことです。当時、石油に代わるクリーンエネルギーとして、LNG(液化天然ガス)が脚光を浴びるようになり、輸送するためのLNG船の建造が韓国の国家プロジェクトとして立ち上がっていました。そうした時、韓国から十数隻分のLNG船向けオールステンレス製の「PIPE TOWER」の商談が舞い込んできたのです。

当時、社内では「現在の当社の技術では対応できない」という声が大半を占め、製造には否定的でしたが、当時より当社が製造している船舶艦装金物は、価格の安い韓国・中国の製品が台頭し始め、売上が伸び悩み、生き残りを賭け

た「モノづくり」の模索を始めていました。そこで、「リスクを冒してでも挑戦しなければ会社の将来はない…」という私自身の強い想いから、「PIPE TOWER」の製造体制づくりに着手しました。そこから約半年をかけて、あらゆる情報を入手し、必要な技術者の教育を行い、ライセンスを習得しました。そしていよいよ製造に着手し、紆余曲折はあったものの半年後には注文どおり第一号の「PIPE TOWER」を無事引き渡すことが出来ました。苦しい経験でしたが、今となっては当社にとって意味のある分岐点であったと心に刻んでいます。

社員の育成は

企業の存在価値を高める原点

- 当社の経営理念は、モノづくり、人づくりをとおして、企業の存在価値を高め、社会に貢献することです。モノづくりの面では、これまで培ってきた技術を活かし、社会に役立つ付加価値の高い製品を提供することで、取引先や地域の人など、当社に関係するあらゆる人たちとの共生を図り、私どもの社会的存在価値を高めていきたいと考えています。

また、人づくりの面からは、会社は社員の技術・能力の向上のみならず、人としての品性、即ち人間力を高めるための学習の場であると

船舶艦装金物から
各種プラント装置まで幅広い
「モノづくり」の実績

- 当社は1957年(昭和32年)、三菱重工業(株)長崎造船所に勤務していた父早瀬伴五郎が独立創業し、三菱重工業(株)長崎造船所の協力会社として長崎市西立神町に工場を構えました。当時は、溶接技術が発達していなかった時代で、新造船の鋼板かしめ用(鋼板と鋼板をつなげる接合部分)の鋳造と修繕船向け機械部品及び製缶品(船体に各種設備を装備する部品)の加工を目的としてスタートしました。

その後、船舶の大型化、建造量の拡大などに合わせて1968年(昭和43年)に長崎市小江原に工場を新設し、本格的に新造船向け「マストポスト」(船舶用の照明やレーダーを設置するポール)を始めとした大型艦装金物(大型の船体装備品)の製造、発電用ボイラー周辺プラント金物の加工を手掛けるようになりました。

2005年(平成17年)には、長崎市小江に新工場を構え、現在の主力製品となる「PIPE TOWER(パイプタワー=長さ35~40mに及びガ

捉えています。したがって、日常生活の大半を過ごす社内において、社会人として必要な知識やマナーなどを身につけさせ、社会に役立つ人材を育成するよう努めています。

そのような中、社員には自分が所属する部署の業務の実態(利益等)を把握した上で、作業に取り組むよう常々指導している他、社員自らが選定した会社の年間スローガンを工場に提示するなど、全社員の経営参画の意識を醸成できるよう配慮しています。

「世界に翔ばたく」カンパニーを目指して

- 繰り返しになりますが、当社のセールスポイントは、特に高度な技術を要するLNG船向けの「PIPE TOWER」の製造技術にあります。世界的に石油からのエネルギー転換が進む中、LNG等のクリーンエネルギーは現在脚光を浴びています。

当社では、このLNG輸送船にターゲットを絞り、いち早くガス搬入搬出製品の製造技術の習得に努めてまいりました。そうした、

時代の流れを読んだ戦略転換を行ってきた結果、LNGにおけるモス(球形タンク)・メンブレン(船体内部装置の四角形タンク)の両タイプのガス搬入搬出装置を共に製造できるアジア地区唯一のメーカーとして、その地位と信頼を築き上げることができました。

クリーンエネルギーであるLNGの需要はまだまだ底堅いものがあり、新しい取組みとして洋上液化プラント船等の構想も世界では飛び交っておりますし、当社の技術が必ずや活かされるものと信じています。

今後も「世界に翔ばたく」を合言葉に、生産委託のベストパートナーカンパニーを目指し、他社の追従を許さない匠のモノづくり技術の確立に向けて挑戦してまいります。

今年で創立53年目を迎えることとなりますが、さらに次の50年の歴史を刻むべく「100年企業」を目指して、全員主役の経営を貫き、確かな経営基盤を構築していく所存です。



親和銀行
取締役頭取 鬼木 和夫

社運を賭けた「PIPE TOWER」の製造への道のりには、早瀬社長の大きな決断と社長をはじめとする皆様の大変なご苦労があったこととご拝察いたします。現在では、この「PIPE TOWER」の高度な技術が他社の追従を許さない「モノづくり」の基盤となり、当社の強みとなっています。これからも早瀬社長の強い「信念」のもと、高いハードルにも全社一丸となって取組まれることで確かな経営基盤を構築し、「世界に翔ばたく」企業としてさらに飛躍されることを期待しています。



創立35周年の時に建立した記念碑



「PIPE TOWER」メンブレンタイプ



「PIPE TOWER」モスタイプ



左から鬼木頭取、早瀬社長、八田長崎営業部長



「PIPE TOWER」メンブレンタイプの前で



大型機装金物(ラッシングブリッジ)